

に、しっかりと力を発揮できる状況を作ることが大切だと考えて取り組みを進めています。各学校における学習集団の規模が小さくなっているため、合同による取り組みや活動でカバーする教育活動を進めたり、小学校の連携による取り組みを進めています。



▲新庄・吉富・神吉の3小学校合同で実施した修学旅行

**問** この地域の小学校では、現在、全校児童数が22人と少なくなり、複式学級が2クラス存在している。中間報告の中で望ましい規模として、1学年18〜20人程度とまとめがされているがイメージが湧かない。小規模校の今後の方向性はどのようなものなのか。

〔美山林健センター〕

**答**

【教育長】子どもたちはその学年の学習内容を、全国同様に学んでいます。少数数では達成することが難しい教科の学習内容などがあり、教育的な角度から考えた場合、少なくとも必要な学習集団が1学年18〜20人程度ということが中間的にまとめられたものです。今後、検討結果と、学校での取り組みをしながら、教育委員会で方向性をしっかりと考えていきたいと思っています。

**問**

統廃合について保護者の関心は高い。少しの情報だけで保護者の考えをまとめるのは難しいので、メリットやデメリットなども含め、情報を整理して提供してほしい。

〔美山知井会館〕

**答**

【教育長】子どもたちは、学校だけでなく、家庭や地域社会などで育っていくものなので、教育問題は学校、保護者、そして地域の皆さんが一緒になって考えていくべきテーマだと思っています。できるだけ情報をオープンにしたいと思っています。検討委員会や教育委員会の会議内容も、ホームページで公

開するなど、できるだけ細かくお伝えしたいと考えています。

**問**

中学校給食について、課題は多いと思うが、そこにかかわると実施するまでに時間がかかってしまう。検討、検討と言うばかりでなく、実施することが大事だと思う。

〔日吉市民センター〕

**答**

【教育長】今年度、中学生にマッチした南丹市らしい給食の身づくりに関する検討のまとめと、それぞれの中学校に配膳室を整備するための設計、中学校の分まで作る体制のできていない、園部と八木の給食調理場の改修に必要な設計委託料を予算計上し、一步一步手順を踏みながら進めている状況です。また、郷土食や伝統食など、四季折々の旬の食材を使った給食を用意することで、地域やふるさとを感じる教育的な面もあると考えており、協議を進めています。すでに実施している美山中学校の取り組みを参考に、手順を踏んで、3中学校に広げていきたいと考えています。

**問**

小学校や中学校が、災害時の避難場所になっているのが、耐震化はできているのか。

〔日吉市民センター〕

**答**

【教育長】近年、さまざまな災害により、小・中学校に避難される事例が全国で相次いでいます。学校は、まず子どもにとって安心安全な教育施設であるとともに、市民の皆さんの命を守る拠点でもあります。市としても、最も重要な課題であると認識し、取り組みを進めている状況です。



▲耐震化工事を終えた殿田中学校